

— まだ見ぬ未来の子供たちへ確かな贈り物を… —

開発虎ノ門コンサルタント 株式会社



所在地：〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-20-6
 TEL : 03-3985-5075
 FAX : 03-3985-5901
 URL : http://www.kckk.co.jp/
 支店：東北 関西 中部
 従業員：146名
 設立年：1963年(昭和38年)
 代表者：代表取締役社長 山下 幹夫
 ISO9001:2008 登録番号 MSA-QS-331(JIS Q9001:2008)



昭和水門(荒川)



加藤洲十二橋(香取市)



デッキトラス橋の点検



ばるおおはし(静岡県)



浮間地区荒川防災ステーション



当社主催の技術フォーラム(技術者の育成・交流への取組)



自社開発IRI: International Roughness Index (路面凹凸の指標)測定車



常陸那珂港インターチェンジ(常陸那珂有料道路)

沿革

当社は1953年設立の社団法人日本開発技術協会を母体として1963年株式会社化され、47年以上の歴史を刻んでおります。事業は当初、水力発電調査が主でありましたが、河川や道路・交通・構造・環境へと範囲を広げ、1985年以降にはPC斜張橋や免震橋梁等で多くの称賛を頂きました。2007年に2社が合併し、現在の社名に変更致しました。最近では社会資本の維持更新に関する技術開発を推進し、「Forecast The Future」の標語のもと全社あげて日々邁進しております。

エンジニアコンセプト

私たちは「まだ見ぬ未来の子供たちへ確かな贈り物を」というキーワードを意識して働いています。

これは建設されるインフラが後世でもその機能を失わず、有用なものとの評価を得ることを信じてデザインしているからです。また、その整備や構築には自

然への影響や調和が課題となりますが、新しい技術知識を駆使し、多面的な要素を融合させ、安全な公共資産を提供し、新しい地域文化の創造に寄与しようとする「創造エンジニア集団」であります。

技術PR

今後、確立すべき課題はストックされた社会資本の有効利用を見据えたマネジメント手法の構築が急務と考えており、2000年より道路舗装のマネジメントシステム(PMS)を初め、橋梁のマネジメントシステム(BMS)等を開発して地方自治体に提供させて頂いております。特に道路舗装の状態把握には廉価な測定手法を開発し、測定車も含めたパッケージで、技術普及や実施適用に取り組んでいるところでもあります。また、最近では都市部で社会問題になっているゲリラ豪雨対策等を検討する氾濫シミュレーションシステムを開発し、市民生活にも直結した業務を行う一方、防災や危機対応に目を向けた事業継続計画

(BCP)の策定と運用から生まれたノウハウの提供も行っております。その他、新潟中越地震では発生直後より関越自動車道の応急処理復旧から本復旧まで全社一丸で取り組んだ事など、社会貢献活動にも努力しております。

育成方針

建設コンサルタントのエンジニアには幅広い知識が要求される時代であり、当社ではデザインする時、「現場の状況を生かせる」をテーマに掲げ、入社後15年間で2回ほど施工現場での管理業務を行う事を育成の基本として取り組んでおります。また今後の課題でもあるCO₂削減に関係した砂漠緑化スペシャリストの育成や、道路交通・環境から構造物の維持管理や情報システム開発までオールマイティーに活躍できるマネージャーの育成等、スペシャリストからオールマイティーエンジニアまで個々の特質を生かした教育プログラムを展開しております。

実績(代表的なプロジェクト)

橋梁設計ではPC斜張橋や免震橋梁の分野で多くの称賛を頂きました。PC斜張橋では青森ベイブリッジ、サンマリブリッジを初め、公園内の3つの河川がある地点に架橋した片面吊り歩道橋「ばるおおはし」。また、免震橋梁では1991年3月に我が国初の免震橋梁として建設された「宮川橋(鋼連続鉄桁橋)」をはじめ、阪神大震災以前に設計し、超多径間連続免震橋梁である「大仁高架2号橋:PC29径間連続」や第二東名高速道路の橋梁に適用する免震支承の標準化にも取り組みました。加えて、「加藤洲十二橋」のような木橋の設計まで橋梁設計では多くの実績があります。近年では防災施設整備で景観検討も採り入れた「浮間地区荒川防災ステーション」や、道路分野での物流拠点港と高速道路を直結した「常陸那珂港IC」、また最近話題のスマートICへの取り組みなど道路関連事業と河川関連事業に多くの実績を持っております。
 (文:代表取締役社長 山下幹夫)